

基本方針

施設整備の基本的な考え方

壬生町の中心に、町民と行政が共創し、ひとつになる「町のリビング」をつくる

壬生町新庁舎基本計画で掲げられた基本的な考え方をもとに、壬生町の 50 年、100 年先を切り拓く庁舎として、壬生の土地に根差し、町民に長く愛され親しまれる「町のリビング」となる庁舎の実現を目指し、以下の設計方針に基づき「壬生町新庁舎基本設計」を作成した。

1. 町をつなぎ、町民をつなぐ
「結びの庁舎」

- ・宇都宮栃木街道沿いの多目的広場はもとより、北側の総合運動場、西側の保健福祉センター等と連携して、周辺エリア全体の発展の核となる「新拠点ゾーン」とすることを目指す。
- ・新庁舎は来庁者だけでなく周辺施設の利用者が気軽に集い、憩うことができる「町のリビング」とし、町と人、人と人を結び、世代を超えた交流・創造・発信の場とする。

2. 町を守り、町民の拠り所となる
「安心の庁舎」

- ・隣接する多目的広場と一体となって災害対応活動にあたることのできる、壬生の防災中枢拠点としての庁舎とする。
- ・災害時に防災拠点として迅速な対応が可能のように、庁舎内外の各エリアが円滑に機能転換できる計画とする。
- ・防災拠点として確実に機能を維持するため、様々な手法で BCP 性能を発揮する、災害に強い庁舎とする。

3. 誰もが利用しやすく、居心地の良い
「憩いの庁舎」

- ・庁舎は駐車場側から待合・窓口、執務、サポートと段階的に配置した明快なゾーニングとする。
- ・1 階の町民ロビー、窓口エリアを「町のリビング」とし、誰もが気軽に訪れることのできる親しみのもてる庁舎とする。
- ・窓口部門を全て 1 階に配置し、ワンフロアを広く確保して上下移動を最小限にすることで来庁者の利便性と職員の庁内連携を高める。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすく働きやすい庁舎とする。

4. 壬生の特色ある地域の魅力を伝え
「発信する庁舎」

- ・建物は上層部をセットバックすることで周囲への圧迫感を押さえた計画とする。伸びやかな低層構成により豊かな平地林の景観と調和する「緑園都市」壬生町らしい庁舎とする。
- ・官民協働で利用可能な共用会議室や多目的広場と一体的に利用できる大会議室など、日常時からイベント時まで様々な場面でフレキシブルに使うことのできるスペースを設け、新たな壬生町の魅力を創造・発信できる庁舎とする。

5. 長く使うことのできる
「スマートエコ庁舎」

- ・ロングスパン構造による無柱化やコアの集約、2 重床の採用により、将来のニーズの変化に柔軟に対応可能なフレキシブルな庁舎とする。
- ・大型のガラスカーテンウォールを使用しないメリハリのある外装、工事工程もふまえた最適な構造手法の採用など、建設から運用を通して負担を抑えた合理的な計画とする。
- ・壬生町の地域特性である日照時間の長さや卓越風などを最大限に活かし、庁舎のエネルギー消費特性や費用対効果もふまえた最適な環境手法を採用する。

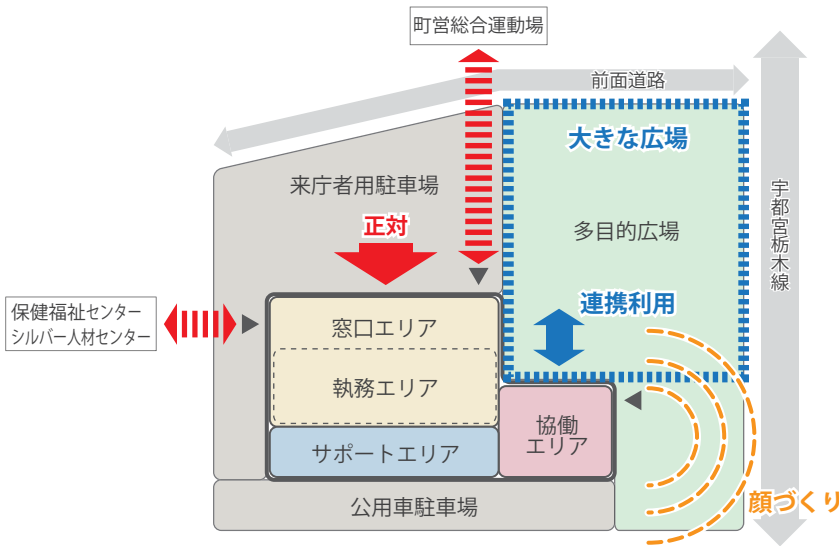


建築計画

施設全体計画

(1) 施設配置

- ・前面道路に面して駐車場を設け、新庁舎を正対させて主出入口を設けた明快な施設配置とする
- ・多目的広場を大きく確保した配置計画とする。
- ・協働エリアと多目的広場との連携、宇都宮栃木線への顔づくりによる魅力発信を行う計画とする。



(2) ゾーニング計画

- ・町民の利用頻度の高い窓口部門を1階に配置する。
- ・災害時の司令塔となる庁議室（災害対策本部）は、町長室・副町長室と同じ2階に配置し、防災関連部署との連携が取りやすい計画とする。
- ・議会は、新庁舎の3階に配置し、議会機能の独立性を確保した計画とする。

